

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 12日(月) 19時00～21時00		
市町村名	堀金村	グループ名	2
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

1. 県配布資料

第3回意見交換会要旨、基本ルートの比較検討

2. 確認事項

2グループには他のグループの意見交換会の要旨が届いていないので至急送付方
県の今後の予定

堀金村3グループの合同意見発表会を11月27日(火)予定 於:堀金村公民館
公報で意見交換会の要旨を公表したい

ホームページでは順次公表している

郡全体のとりまとめをしたいと思っているが未定(地区別道路懇談会)、開催時は知
事にも出席してもらう予定

合同意見発表会の持ち方:・グループで発表者を決め発表する・発表会の内容を県
の方へ取り上げてもらう・行政側の出席を求める

今後の意見交換会、発表会には、村会議員、村職員の出席をお願いしたい。

11月16日(金)開催の意見交換会は、私的な会合の為、2グループとしては参加せず
自由参加とする。特に私的な会合であるので県主催の発表会が終わった後で私的に呼び
かけ実施すべきである。また、県が参加するのはおかしい。(県も私的な会合と認めて
いる)

2グループとしては11月27日意見発表会を持って終了させ、意見交換会を解散する事
とし、1グループ、3グループへもその方向で賛同を求めて行く。

次回11月21日(水)午後7時より、役場別館小会議室にて

次回迄に各自意見交換会での自分の意見をレポート用紙2～3枚にまとめて持参する。

3. 農業問題についての意見交換会要旨

当初、A氏より「道路と観光と農業の結びつきについて」の意見発表があった

○観光客を農業の活性化に役立てたい。その為に 市民農園の開設、青空市場の実施 イ
ベントの実施 グリーンツーリズム(都市と農村との滞在型保養、文化交流) クライ
ンガルデン(滞在型市民農園)の開設

○米作減反(堀金村40%)に伴う農地を転作作物(花き、野菜等)で有効利用し農業の
付加価値を高め観光と結びつけたい。観光客を呼び込み農業の活性化を図る。

○地場産品を育てていく、加工団体と連携をとり、特産品を作る。

○景観作物(レンゲ草等)を生かした催し物を開催する。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 12日(月) 19時00～21時00		
市町村名	堀金村	グループ名	2
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

- 市民農園を開設する
- 結婚難を道路による活性化で解消させたい
- 遠隔地へ大型農機具を運んで通勤型農業が出来る
- 兼業化農業の推進を図る。道路によって大資本企業を誘致し働く場所を確保する
- 生活道路、農業道路と墨分けしたい
- 所得を上げ民活力度の向上を計る
- 以上の意見に基づき議論をした
- 高規格道路が出来た場合、堀金物産センター、道の駅はどうなるのか
バス会社と契約すればよいのではないか
- 休耕田は？現在4割の減反指示があるが法的規制はなく全く減反しない県も18～20県あるが長野県は101%も達成している。堀金村も100.5%達成している。それというのも減反しなければ隣近所、関係者からあぶり出しをされるのが現状である。農業だけ国策がとられているのはおかしい
- 山麓線、大規模農道周辺の農地が荒れて来て木が生育している。農業は金が入ってこない。大規模農道の荒廃地は村が買い上げた土地である。村が買い上げたとはいっても税金の無駄使いであり、無駄な土地が出来ているという事で、税金や土地が有効活用されていない。おかしい。
- 4割減反は企業に勤める人が賃金カットされている現状と同じで農業も企業も賃金がかットされているのが現状である。
- 国がミニオンアクセス政策をとり減反しながら外国から野産物を購入して、工業製品の輸出をしている。農家にしわ寄せが来ている
- 代替地等を考慮し休耕田面積と道路スペースの割合が合えば代替をして道路整備をしたら。しかし、現実には、土地利用の立地条件が異なり田圃となり得ない土地が多く無理である。
- 高規格道路が出来ると、地形が変わり気象条件の変化によって作物の生育に支障を来たす
- 堀金村のシンボルは常念岳である。盛土による高規格道路が出来ると環境保全に問題が出る。堀金村を通る場合は、地形から盛土構造となるので特に問題である。半地下式にすると地下水が高いためこれも問題である。
- 昔の塩の道は、地元住民の経験と地形・地盤を考えて造られているので災害に強いが、最近の道路は過去の経験が生かされていないため災害に弱い。

第4回 意見交換会 要旨

開催日時	11月 12日(月) 19時00～21時00		
市町村名	堀金村	グループ名	2
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

- 波田起点ルートは県の机上でのルート案であり、中部縦貫道開通を前提として検討された交通量予測である。従って、中部縦貫道が凍結され、ルート発表、継続かも決定されていない。この状態での交通予測は、資料としての価値が無い。
 - 道路網を整備することによって沿線に物産センター等出来ないし、人が来ない。道路をカンフル剤とする様にしなければならない。また、時間に余裕が出れば、高速道によって足を延ばす事ができる。
 - しかし、足を延ばせても、また人が寄ってくるにしても観光客が来る様な農業・村にしておかないと観光客は来ない。
 - そのためには、アイデアを取り入れた農業経営や物産センター、道の駅を造ったり地場産業、製品を考える必要がある。
 - 観光農業、交通量緩和を考えるならば奈良県明香村の様に大型車が通行出来ない様に道路拡幅はせず、信号機で交通規制をし、インター周辺に大型駐車場を設け、地元の交通機関(タクシー、自転車、オートバイ等)又は徒歩によって廻らせ、道路端に無人売場を設け野菜・果物等を販売して、観光と農業を両立させ、生活道路が住民に生かされる。道路拡幅だけが整備ではない。それによって新たな職業が出来、地元の人々の収入となり、村が活性化する。
 - 景観が問題であると言うならば豊科ICから、下堀の北を通る国営公園へのアクセス道路の方がむしろ安曇野の景観を損なうので特に考慮する必要がある。
 - 中京、関西方面からは高速道で来る、東京方面は信越道を利用して日本海側へ行く。中京関西方面と日本海(糸魚川)とつなげなければ人は来ない。電車では不便である。どうしても塩の道のベルトが必要である。
 - 国営公園の観光客を堀金村へ呼び寄せる必要がある。しかし、受け皿となる堀金の問題となって来る。客を呼び寄せる為の基盤整備をしておく必要がある。
 - これからの農業は、時間にとられないインターネットを利用した、オーナー制を取り入れた長期滞在型の農業経営をして行く必要がある。それによって、高規格道路は必要なく長期的な収入源ともなり、家庭的交流により結婚問題の解消にも役立つ。
- (尚一部記録者が発言出来なかった分の補足有)

次回 11月21日(水)午後7:00～ 役場別館 小会議室

当日迄に各自、自分の意見をレポート用紙2～3枚程度にまとめて提出する。